

2016 年度「なごや環境大学」実行委員会総会 議事録

日 時：2016 年 5 月 16 日（月）15:00～17:30

場 所：名古屋市役所 正庁

出席者 総出席者 46 名（別紙総会出席者名簿参照）

- ・ 実行委員 23 名（実行委員（内代理出席 2 名）16 名 委任状 7 名）
- ・ 監事 0 名
- ・ 参与 8 名（内代理出席 2 名）
- ・ 事務局 9 名
- ・ 傍聴者 6 名

1 はじめに

(1) 司会挨拶より総会開始

・ 蒲事務局長の司会で総会開始。尚、当総会は公開であることを言及。
田宮委員長 5 月臨時市議会のため欠席の報告。

(2) 涌井学長挨拶

涌井学長挨拶

・ 冒頭、総会出席の関係各位様への日頃のご支援への謝辞。昨年度の 10 周年事業へのご協力に関し御礼を述べられる。

今後 10 年の展望として政府はリニアをツールとして名古屋と東京を一体化させることで約 5000 万に縮退する生産年齢人口のうち 3500 万人をこの地域に集め生産性を高める構想を練っている。また、昨年度の COP21 の開催により途上国と先進国の間に妥協点が成立して一歩踏み出した。本年は生物多様性条約締約国会議もメキシコのカンクーンで行われる予定である。

地球環境問題はグローバルな問題ではあるが、一方ではひとりひとりの積み上げでもある。環境負荷の低減には市民ひとりひとりのライフスタイルの転換が最大の課題であり最良の近道であり、様々なステークホルダーの市民に分け隔てなく声をかけ環境問題への関心を高めているなごや環境大学の取り組みには誠に価値がある。愛・地球博、COP10、ESD と積み重ねてきたなごやの環境ブランドというものを市民に覚醒していただいていることで、名古屋市民のライフスタイルの選択が世界に対してのメッセージとなっている可能性が高い。その可能性の可視化について環境大学を支えていただいている皆さんがされている。今までの 10 年をふりかえり新たな 10 年、長期の方向について闊達なご意見を頂戴したい。皆さんのご尽力に対し、改めて敬意を表する、という言葉で締めくくられた。

(3) 報告「なごや環境大学」実行委員会名簿・・・「参考資料 P2」

資料に基づき事務局から説明。

退任された 4 名の委員の方々のご紹介のあと、新しく就任されたの方々のご紹介。改選や異動により、4 名の委員の方が今回就任されている。また、監事 1 名、参与 4 名の方の異動があった。退任される方には感謝を、新しく就任いただいた方には今後のご協力をお願いした。

2 議 事

本日は 25 名の委員のうち 16 名の実行委員に出席を頂き、委任をいただいている方が 7 名で規約第 11 条に基づき総会は有効に成立している。

また、本日の議長は会務を総理する委員長よりあらかじめ指名を受けた常任幹事の千頭委員が議事進行することになる。

第 1 号議案：「2015 年度事業報告(案)」

2015 年度活動総括

・・・「議案集 P4～8」及び「参考資料」

「議案集」及び「参考資料」に基づき各実行委員から説明。

事務局から活動の詳細については別冊の「活動報告書 2015」も参照いただきたい旨案内。
説明時間は各チーム 3 分。

以下 2015 年度の活動の総括の説明が行われた。

2015 年度の活動方針と重点取り組み事項について議案集に沿った形でそれぞれ総括報告が行われた。

順に

千頭委員（全体総括）

長谷川委員（講座チーム）

緒方チーム員（なごやを動かそう！チーム）

山田委員（広報チーム）

新海委員（ESD 推進チーム）

尹委員（ハンドブック改訂チーム、リソースマッチング事業チーム）

杉野委員（10 周年事業）

の発表が行われた。

第 2 号議案：「2015 年度決算（案）」

2015 年度決算（案）

・・・「議案集 P9～14」

議案集に基づき事務局から説明。その後事務局から説明のあった決算書につき 2 名の監事による監査が行われたことを案内。監査結果について、「監査の結果、決算が適正に行われている」旨確認いただいたことを報告。

決算書説明後、議長から「第 1 号議案の 2015 年度事業報告（案）」並びに「第 2 号議案の 2015 年度決算（案）」につき審議要請。

第 1 号議案、第 2 号議案とも拍手で承認される。

第3号議案：「2016年度事業計画（案）」

2016年度全体方針、各チーム方針（案）・・・「議案集 P16～22」

議案集に基づき各実行委員から説明。
尚、説明時間は各3分。

千頭委員（全体方針・第4期ビジョン）・・・以下説明骨子です。

- ・全体的な方針は過年度通り。

重点取り組み事項としては第4期ビジョン策定のための検討会議の設置と戦略策定。リソースマッチング事業の進化・発展、次世代を担う若者及び団体との連携強化。対外的に打ち出していくためのブランディングとハンドブックの更新・活用、事業と実施体制の見直しを行う。

第4期ビジョンは第3期ビジョンを基本としつつ、ESD、なごや環境学習プランを加えていく。10年間を振り返るとともに10年先を見据えたビジョンを策定し、定量的、定性的な目標設定と外部評価の導入と、外部資金への導入。

長谷川委員（講座チーム）

- ・名古屋市の各部局と連携した新たな主催講座を実施する。主催講座・公募講座について、定量評価に加え定性評価を用いた新たな評価指標を検討し、講座内容や企画団体のステップアップを促す。

緒方チーム員（なごやを動かそう！チーム）

- ・共育講座主催者と共にムーブメントを作るようなアイデアミーティングを開催。地域や企業などに積極的に働きかける。気候変動やごみなど社会的テーマに関し、率先してアプローチをしていく。

山田委員（広報チーム）

- ・全体方針にあげられているものを広報チームの立場で実践していく。ブランディングプロジェクトとしてエコプロへの出展をする。大学や企業の環境に特化した特徴的な活動を取りあげ発信する。ウェブサイトの充実。

尹委員（環境ハンドブック検討チーム）

- ・「市民による市民のための情報ひろば」の公開をして維持管理をし、盛り上げる。第4章についての構成を検討するとともに、現版のニーズ調査や、活用事業の企画と実施。

蒲事務局長（リソースマッチング事業）

- ・各チームからリソースマッチング事業にメンバーを募り、連携をしながらプロジェクトを推進するとともに、昨年度行ったリソースマッチング2016の参加者に対し追跡調査をおこなう。イベントに加え、日常的なマッチングの仕組みを検討し、中間支援を行うとともに可視化を行っていく。

第 4 号議案：「2016 年度予算（案）」

2016 年度予算（案）

・・・「議案集 P23」

議案集に基づき事務局より説明が行われる。

予算説明後、議長から「第 3 号議案の 2015 年度事業計画（案）」並びに「第 4 号議案の 2016 年度予算（案）」につき審議要請。

尚、議長の千頭委員より「第 4 号議案の 2016 年度予算（案）」の区分「なごや動かそう！チーム」の内訳「無関心層への PR」という表現を、適切な表現に訂正する旨の発言。

第 3 号議案、第 4 号議案に関して質問、意見が出される

楠美委員

第 3 号議案の説明の中に、実行体制（案）の説明が入っていないが実行体制は誰がどのように作っているのか

→（千頭常任幹事）実行委員は委員長指名、誰がどのチームに入っているかは内部の幹事会で決定している。

→（楠美委員）講座チームに入りたい（長谷川委員了承）

→（千頭常任幹事）具体的に何かを行う際には提案書を作成し、チーム会議でおはかりいただきたい。

→（楠美委員）今後の体制づくりの中でアンケートを復活させてほしい。

萩原チーム員

第 4 号議案について、毎年 10%程度環境大学の予算が減らされてきたが今年度は戻った理由を聞かせていただきたい。

→（竹内常任幹事）局内部内の予算配分を見直し、検討した結果である。

→（小木原主幹）環境学習プランを策定し推進していくため、環境大学は環境学習プランの実行部隊として重要な役割を担うことになることから、予算配分を手厚くした。

その後第 3 号議案、第 4 号議案とも拍手で承認される。

改めて涌井学長より第 4 期ビジョンへの意見をいただく。

涌井学長総括

まずはお諮りしたことについてご了解いただいたことへの御礼。

7 月に就任してから感じた事、第一点は市長自らが環境大学へどれほどの価値を感じて持っているかについて市長と話し合った結果、市長のレセプション等への出席に至った。

一番懸念していることは、名古屋そのものが 10 年後に相当変わらざるを得ないことへの危機感がどれだけあるのか、経済的な圧力に対しては住んでよし、暮らしてよしという、そしてなおかつその背景にある東京都とは全く違う条件が土地の属性としてそこにあるという、一つの付加価値がなければ都市間競争の渦の中に巻きこまれて効率性のみが重視される方向の中に埋没してしまう。例えば名駅と久屋大通に関して商業的なバランスでいえば名駅サイドに吸引され久屋が縮退している。一方では、災害という観点で見ると久屋地域の方が堅牢であり、水都なごやという宿命から行けば津波被害が起きたときにどこが支えるかというこの地域かもしれない。今までの名古屋は商業活動や生産活動というものを前面に押し出した経済活動のエンジンとしてのエリアと、豊かさを深めるエリアという土地利用うまく使い分けてきた、日本にとってあまり例のないデュアルな構造をもった都市であり、この個性をどのくらい将来に遺せるかが問われている。

COP10で愛知ターゲットが定まり、MOP5名古屋議定書が締結されいまだに世界各国の人にとっては愛知名古屋というブランド名が残っている。昇竜道というものによってインバウンド推進というものがすごく強力な線で進められようとしている。(上半身はインバウンド対応ができていて、腹から下は対応できていない)国際化という方向に名古屋が取り込まれていく中で、名古屋のアイデンティティをどうするのかということを考えていったときに、なごや環境大学というものに意味があるしつらえとなっている。

一方で感じたのは美しい組織であるということ。10年間皆さんの努力で、非常にうまく運営をされてきて、完成度が高くなるということは逆に言うと未来に対する可能性をうしなうことでもあるので、そこを一体どうするかということがビジョンの上での大きな問題。

10年で作ってきた美しい組織ではあるが、もう一度表面を凸凹にしてみるのも次への取り組みとしては必要。多様性を考えていったときに一体何によって多様性が確保できるのかというのは、今まで全くなごや環境大学に興味と関心を持っていないステークホルダーともう一度手を取ることである。例えば大学自体とはつながりきれていないし、外部資金の面でも十分ではない。外部と手を携えながら新たな世界を広げていって、ユースのような次世代を担う若い人たちが活動の中心となって、動的な平衡みたいなものが作れるといい。

愛と信頼と誠実さが三つ葉のクローバーだが、4つ目の葉っぱである夢、希望、将来といったものに関して、なごや環境大学の中で将来どうなってほしいかという話をしていく中でユースと手をつなぐような局面ができればよい。

ここで学長のビジョンの話もしくは全体を通しての質問、意見交換、感想等になる。

萩原チーム員

・昨年実行委員を辞任した。今回も4人の方が辞任をされるのでそれに関連して発言したい。学長もおっしゃっていたように大きく状況が変わってきているということが間違いないといった意味で新たな視点での取り組みや人が必要だということの中で8年ルール、あるいは10年ルール、実行委員の新陳代謝が必要だということを自分の辞任に込めたつもり。とはいえ、チーム員として残っていることはなごや環境大学の豊かさである。外からチーム員としてかわることはできるし自分の所属の組織と環境大学を含めてかわっていけるのだから、古いメンバーへの新陳代謝を促したい。

これまで肌感覚で話してきたが竹内委員の著作のデータを見て変化についての話をしたい。自身は2010年が日本の環境意識のピークだと思っているがこの総理府データでは2008年がピーク。暮らしの中での工夫や努力をしている人は減り続け、先ほど無関心という話が出ていたが、特に環境に関して行動したいと思わない人が増えている。日本全体の中で環境に対しての流行という言い方をあえてするが意識が低下している。また、別の調査で名古屋市内のデータが出ているが環境意識、暮らしの中での取り組み状況が低下傾向にあることが見て取れる。名古屋市で施策として定着させたものに関してはポイントが上がっているものがあるが、その他は明らかに大きく落ちている。このように大きく時代が変化していることを認識していただき、新陳代謝をしていってほしい。なごや環境大学自体は貴重な存在ではあると認識している。このような日本の環境意識の低下の主たる原因は行政主導、国が主導してきたという経緯があり自動的に落ちてきているので、なごや環境大学には頑張ってもらいたい。ちなみに世界の環境危機意識のランキングとして世界を10エリアに分けてみると、日本は危機意識が3番目に低いとされている。この地域で環境活動していくということを認識して実行委員のみなさんはやっていっていただければと思っている。

新海委員

事務局の参考資料の P8 をみると 2012 から 2015 年度までの講座等の参加者の数値がわかる。これが我々の実態。一方大体 3300 万の予算の中でやれることはこの 4 年の数値の範囲内なのではないかと考えている。参加者 20000 人くらいの状況は変えたくないという中で新しいことをやっていくとなると新しい金と新しい巻き込み手法を考えなければならない。今年度は第 4 期ビジョンと言っているが数値に表れている部分から改善をしていかなければならない。

もう一つは先日富山で行っている環境大臣会合に行って、そこで頑張っている富山の市民の方々のご意見を聞いてきた。彼らは環境大臣会合で出されたアジェンダに対して市民の政策を市民宣言として出して環境大臣に届けようとしている。また、伊勢志摩サミットでも市民団体が意見を届けようとしている。一方環境大学は講座に参加する市民は多くても市民の参加する門戸が狭くなっているという事実があり、私たちが考えるのか新しい人が考えるのかはおき、今年をどうにかするのは 10 年作ってきた私たちの責務。努力していきたい。

中村委員

現在予備知識はない状況である。保健環境委員をやっていて前年度他府県の会議に出た。いわれてうれしかったのは名古屋のごみの分別文化ということだった。これならどんどん発信していけばいいと思った。区内でもきれいなせせらぎがあるところがあったらいいと考えている。環境大学として地域単位の活動を何かできればと考えている。

尹委員

入って 3 年目くらい。やっと自分の役割や立ち位置がわかってきたが、それまではなかなか自分の色をだした活動をしてこれなかった。それが、新陳代謝という形で見えてこなかった原因だと反省している。新しいステークホルダーとの接点という意味で、大学の人間としてもっと頑張りたい。参考資料の P8 を見ても 20 代が少ない。若い世代を取り込むための活動をしていきたい。

大鹿委員

自分も 3 年目で立ち位置がみえてきた。もう一点感じている部分がある。なごや環境大学なので名古屋のことを考えるのはもちろんだが、学生を見ていて名古屋と三河と尾張の縄張り意識のようなものを感じている。そういった縛りをなくしながらいろいろなトライをできるようにしていけたらいいと感じている。名古屋に住んでいるから名古屋のことだけというのではなく、お互いを知りながらやっていけたらいい。教育もカリキュラムなどがかなりドラスティックに変わろうという方向で動きつつあり、ESD も柱に入ってくる。そういう意味でも若者にもそういう視点をうまく使うようにできたらと考えている。

3 閉 会

千頭委員が予定していた総会の議事がすべて終了したことを発言し閉会。